

# 平成23年度 派遣教員帰国報告会資料

ロシア モスクワ日本人学校  
平成20年度～22年度派遣  
草加市立花栗南小学校  
教諭 瀧澤 史 広

## 1 はじめに

平成20年度から3年間にわたり、かねてからの夢であったモスクワ日本人学校に派遣され、教育活動に携わらせていただいた。長いようであつという間だった3年間だが、何物にも代えがたい経験をさせていただき、心より感謝している。

## 2 ロシア・モスクワ概要

モスクワ 10.5時間

### (1) 気候・風土

世界一の国土(約1707万km<sup>2</sup> 日本のおよそ45倍)を持ち、9つの時間帯を持つロシアは気候・風土を一概に論じることはできない。一般的な日本人が持っているロシアの気候のイメージはとにかく寒いということかもしれないが、モスクワの気温は夏には30℃以上にまで上がることもある。反対に冬にはイメージ通り-20℃前後まで下がる。新緑は5月で9月には紅葉し、積雪期間は11月から3月までで、短い夏の日照時間は長く、夏至の頃には夜10時でもまだ夕日が部屋に差し込んでくる。逆に冬の日照時間は短く、まだ暗い中を子どもたちはスクールバスで登校し、既に日が落ちた中を下校している。

8:50

3:30~4:00

### (2) 公用語・習慣

公用語はロシア語であり、英語はほとんど通じない。ロシア人は一見は無愛想だが、一度知り合うと、大変心優しく、深い付き合いになることが多い。多くのロシア人はモスクワの郊外にダーチャ(菜園付きの別荘)を持っているので、初夏から秋にかけては、金曜日の午後から日曜日の夜までダーチャに行き、菜園の作業をしたり、休んだり、釣りをしたりして余暇を過ごしている。また芸術・スポーツ活動が盛んで、オペラ・バレエ・演劇・サーカス・スケート・コンサート等が常に劇場等で開かれており、小さいころから文化に親しんでいる。

## 3 モスクワ日本人学校概要

昭和42年10月創立のモスクワ日本人学校はヨーロッパでもっとも古い日本人学校である。正式な名称は在ロシア日本国大使館附属モスクワ日本人学校となっており、大使館附属の学校となっている。つまり現地の学校としてはまだ認可されていない。小学部・中学部合わせた児童生徒数は近年増加傾向にあり、昨年度は、全校で120名だった。

校舎は5階建ての建物で、1階はスウェーデン人学校、2階はイタリア人学校、3階はフィンランド人学校と他国の学校も同居しており、4階と5階が日本人学校が使用している。ただし、5階にある体育館と、校舎に隣接しているグラウンドは4つの学校で交代で使用している。



#### 4 特色ある教育活動

##### (1) 現地校との交流

モスクワ日本人学校は20数年前より、異なる文化及び生活習慣を持つ現地の子どもと積極的に関わろうとすることを目的に、現地校（小学部は1239番校、中学部は1535番校）との定期交流を行っている。

##### ○交流内容

2学期には、現地校に実際に行き、算数や図工、体育の授業を受けたり、ロシアの遊びを通して、交流を深めた。



～交流の様子～ 基本的に現地校での授業はロシア語で授業が進められる。

3学期は、日本人学校に現地校の児童・生徒を招待し、授業交流（算数、道徳、体育等）をしたり、日本文化の紹介をしたりした。



～交流の様子～ 折り紙を教えたり、家庭科としておむすびの作り方を教えたりした。

定期交流を通し、お互いの文化を学ぶことができ、双方にとって、とても有益なものとなっている。子どもたちは交流後も、学校のメールアドレスを利用して、連絡を取り合ったりしていた。

##### (2) 同居校との交流

現在の校舎を前述の4校が共有するようになって9年である。それぞれの国の教育や文化を知るために、授業交流やスポーツ交流を定期的に行うことは双方にとって大変に有益であるため、積極的に交流を図った。

##### ○実践内容

- ・ 4校対抗リレー大会及びサッカー大会
- ・ 英会話の授業交流（イタリア人学校・スウェーデン人学校）
- ・ フィンランド人学校のロシア祭参加



### (3) 語学教育

#### ○ロシア語学習

モスクワでは学校を一步外へ出ると、基本的にロシア語しか通用しない。英語も若い世代を除いてはほとんど通用しない。そのため、日常生活では、最低限のロシア語の習得が必須となってくる。

##### ・実際の指導

モスクワ日本人学校では、小学部は週2時間、中学部は週1時間ロシア語の授業を行っている。指導は日本人講師1名、ロシア人講師2名で行っていた。ロシア語学習を通し、コミュニケーション能力を高めたり、現地理解を深めることができた。子どもたちも毎時間の授業をととても楽しみにしていた。

授業では、文字の読み方から、基本的な文法事項までを丁寧に指導し、ロシア語能力を高めていった。



～ロシア語授業の様子～

ロシア人講師は2人とも日本語も話すことができる。また、日本人の石島講師はモスクワ日本人学校で10数年ロシア語指導に携わってくださっている。子どもたちにも好かれ、モスクワ日本人学校にはなくてはならない存在となっている。

#### ○英会話学習

在外教育施設においてはどこもそうだと思うが、英語学習にかかわる保護者の要求が非常に高い。日本国内でも、小学校段階から英語学習が始まったが、あくまでも「英語に親しむ活動」であるのに対し、モスクワ日本人学校では、英語が少しでも使えるようになること、会話ができるようになることを目標として指導を進めている。

##### ・実際の指導

児童の実態に応じて習熟度別に分けて指導。低学年では、ゲームや英語の歌を主体に、中学年ではテキストを基にした会話を軸に据えた。特に高学年では中学で学ぶ教科としての学習内容に系統性を持たせた指導を行った。授業時間は以下の表の通りである。

	授業時間	授業回数
小1～小4	20分	週2回
小5・小6	45分	週2回
中学部	50分	週2回



また、指導にあたっては、英語教諭、外国人講師2人（ネイティブスピーカー）の3人体制で授業を行うが、児童の実態に応じて2～3のグループに分けた。このグループは、原則1学期間には変えないこととしたが、学期当初など、子どもたちがそれぞれのグループが合っているか様子を見る必要もあり、必要に応じて柔軟にグループを変えることを行った。

